いわき民報

發行所
いわき民報社
平市紺屋町一番地　電話三八一番
編輯兼發行人 印刷人　千輝克己
日刊　但月曜日を除く
定價　一ケ月五円　一部二十錢

市の優良店舗決定さる

全市の投票で十五店が

平市優良店舗の開票は廿四日午前十時から商工會議所で渡部地方事務所長、大竹平署長、諸貴族院議員、佐藤市助役、草野利男、山崎與三郎、野澤いわき民報社長、消費者代表國人要太、酒八政之助、鈴木會議長等立會の下に行はれた、投票數は九千七百卅一票で市内卅六區のうち無投票が十九區内會もあつた當選店舗は左の十五店で、釜屋商店が九百二点で第一位を占めた、右商店には近く優良店舗に標、看板等が縣から交付される

▼九〇二点釜屋（五町目）▼七二二点マルトモ書店（四町目）▼六九七点大黒屋（三町目）▼六六八点大一屋（二町目）▼六二七点丸ほん（三町目）▼五八九点小野藥局（田町）▼五三九点坂本紙店（二町目）▼四五〇点魁文堂（才槌小路）▼四一四点福島屋商店（柳町）▼四〇八点佐藤正次郎商店（仲間町）▼三八二点鱗與支店（四町目）▼三七八点三井呉服店（新川町）▼三七六点白土陶器店（二町目）▼三四八点金光堂（五町目）▼三二八点いづみや商店（田町）

産婦人科
齊藤醫院
平市南町五七
電話九〇二番

唄と踊で大擧來援

茨城縣の各官廳勞組が

教組、全遞、國鐵の激勵に

最低生活費の獲得を目指して本年最後の頑張りを續けてゐる教員組合、國鐵、全遞の各組合に對し茨城縣の各官廳各勞組で唄と踊りのスタッフを大擧動員して來縣、共同鬪爭の激勵をかねて二十七日午前十一時から磐女講堂に、午後五時から内郷町記念館に夫々「はたらくものの唄と踊り」の會を開きはたらくものゝ年末慰安を行ふ

石炭會館を

東部石炭協會が

三百萬圓投じて

東部石炭礦業會を援助し石炭礦業の興隆發展を期して發足した東部石炭協會では二十四日午前十時から市公會堂で第一回總會を開き會長大貫經次氏外理事十七名監事二名を選擧、取敢へず事務所を東部石炭礦業會内に開き東部石炭會館の建設、東部石炭礦業會の援助事業につき審議したが來春一月から六月迄に各炭礦より出炭數に依る會費を徴收、三百萬圓を計上、内五十萬圓を以て高萩出張所も設置する石炭會館の敷地は既に市内某地に内定買收中とある

平保健所移轉

花柳病院建設で

二十四日公會堂で行はれた郡町村長、農業會長の合同會で大森醫師會長、萩原齒科醫師會長からさきに設立決定を見た花柳病院について建設の際は八幡小路の現平保健所の場所、建物を病院に當て保健所を街の中央に移轉、從來不便の爲案外利用者の尠なかつた同保健所の利用價値を大ならしめたいと提案され滿場一致可決された

魚の山築く江名濱

正月用の魚は大丈夫引受けた

江名漁業組合では縣民を始め東部民にお正月用の魚を配給、新しい氣分で平和日本の再建に努力して貰はふと總力を擧げて出漁中だ、二十五日には底曳船二十五隻が揃つて水揚げし魚の山を築き非常な活況を呈したが更らに現在十七隻が引續いて出漁中又一方中之作港所屬船も目下茨城沖に出漁中何れも三十日迄に歸港の豫定とあるのでこゝ年末の漁港は素晴しい張り切り振り〝水産江名〟の誇りを高らかに示してゐる

建築促進運動展開

總力擧げて第一校同窓會立つ

第一校同窓會では二十二日午前十時から常磐亭で幹事會を開いた結果、同校の建築が資材難の外に請負側の手間、配給資材等で行き悩みの狀態にあるので、之が打開策として各區内會長に呼びかけ各區内會、青年層を通じて積極的に建築促進運動を展開する事になつた

郡關係の教員異動

本年最後の教員移動が發表されたが本郡關係者分の通り、尚石城郡の視學は一名增員され三名となつた、尚孤内は新任校

▼視學ゟ石城（植田）瀨谷洋一

社告

新社屋の工事促進と用紙事情のため本年の夕刊は本日を以て打切り明春より筆硯を洗つて發刊致します

皆様の御多幸な御越年をお祈り申上げます

昭和廿一年十二月廿六日

いわき民報社

平市常會

平市では二十六日午前十時から本年最後の常會を開き左記事項を協議した

市常會幹部選擧、區内會長選擧、引揚者等越冬物資配給、同胞援護會縣支部濟生會支部寄附金募集、引揚者更生三ケ年運動展開協力、技術浸透、自給肥料の增產、土地調査、鑛工品增產對策、配給人口の適正把握、本年度產米政府買上促進、（殊に味噌用大豆及正月用糯米の供出促進）精米精麥設備許可、節電、水道愛護、殺鼠劑配給、林道開鑿工事施行、甘藷及かじめ配給價格差額金徴收、衣料品闇取引防止國民運動實施、區内會上通達事項等について

お正月用に

海苔配給

傭船の洗沒で

鮭配給お流れ

平市大工町石城海產物市場では豫報の如く市民へのお歲暮に（鹽鮭）其の他の配給に奔走中で二十六、七日頃入荷する豫定であつたが、傭船の長陽丸（一〇〇トン）が釧路港へ入港する直前時化のため洗沒、殘念ながら海送困難となり年内の配給は中止となつた、從つて丸公市場では近く北海道へ社員を派遣、札幌鐵局陸送の貨車配給方折衝、新年早々市民の食膳に供することになつた。

尚其の他の數の子一人十匁（二人分二円四十錢）するめ一人一枚（四円前后）海苔一人一帖（九円五十錢）は完全に確保一兩日中に販賣所を通して配給する

增炭戰へ最後の拍車

常磐炭礦では十月から實施された增產期間も三十一日で終了するので十月の二千噸、十一月の一萬噸に拍車をかけ十二月には七萬噸出炭を目標として二十四日から三十一日迄を大增產週間と銘打つて本年の最後の一大增炭運動を展開した

衛生行政面

平保健所へ

警察は取締のみ

十二月十七日附の縣令に依り從來平署衛生課で扱はれてゐた衛生行政面は全面的に平保健所に移管される事になり、平署の事務引繼ぎは二十二日全部終了した、今后國民醫療法、醫師法、保健婦關係、藥事法、傳染病關係、理髮、美容、衛生、マッサージ等は平保健所で扱ふ事になり、警察衛生係では取締關係のみを行ふ事となつた、平保健所では一月早々關係者一同を招致して事務移管に關し懇談會を開く

陸上競技部納會

スポーツ聯盟陸上競技部では二十九日午前九時から磐女校で競技納會を開くが、終つて懇談會も催し明春の競技その他について意見を交換する

電話新設
九〇四番

鑛山用金物製作
ボイラ製作及修理
パイプ配管工事
漁船用金物一式
瓦斯熔接並電氣熔接

平市鍛冶町五番地
古川鐵工所
古川直治

大入繁昌の

年末の平署

最近の犯罪は年末に入つて益々增える一方で平署の留置場は十二月に入つて一日平均十五、六人で恐喝詐欺、强盗、賭博、强竊盜等で占めて居り平署では十二月に入つてから各係を動員して犯罪豫防撲滅に當つてゐるが、青年層の犯罪については市内外各地の勞組に呼びかけ自發的に青年相互の自粛を要望すると共に最近殊に多い不良の蹂躪徘徊等に重点を置き徹底的に取締りを强化して居る

市民が選んだ優良店舗紹介

金物	釜屋	五丁目 電話九
書籍文具	マルトモ書店	〃四丁目 三〇
百貨	大黒屋	〃三丁目 七八
和雜貨	大一屋	〃二丁目 一三
家具	丸ほん	〃三丁目 三九
藥品	小野藥店	〃田町 一四四
文房具	坂本紙店	〃二丁目 一八
書籍文具	魁文堂	〃才槌小路 三三
荒物雜貨	福島屋商店	柳町
和雜貨	佐藤正次郎商店	〃仲間町 九二六
小間物洋雜貨	鱗與支店	〃四丁目 四〇一
纖維製品	三井呉服店	〃新川町 三八
陶器	白土屋陶器店	〃二丁目 五四四
時計 眼鏡 ラヂオ レコード	金光堂	五丁目 一九五
小間物化粧品雜貨	いづみや商店	〃田町 四八

父故陸軍上等兵吉田要二葬儀の際は遠路御會葬被成下且御鄭重なる御香奠御供物を賜り篤く御厚志の程奉深謝候早速拜趨御禮可申上處略儀以紙上御禮申上候

昭和二十一年十二月二十六日

平市田町一一八

嗣子　吉田要太郎

兒　吉田常太郎

親戚　三萩喜久也

總代　佐藤庄太郎

父嘉吉儀病氣中の處療養相不叶十二月二十四日午後十一時五十分死去仕候間生前の御厚誼を拜謝し此段御通知申上候

追而十二月二十五日午後一時田町自宅出棺[illegible]寺に埋葬仕るべく候

昭和二十一年十二月二十四日

平市田町五七

喪主　諸橋[illegible]郎

親戚總代　諸橋正次

郡の全般では―

依然舊勢力が壓倒的

農組の進出は僅に四十四名

町村別にみる當選者の氏名

郡内人口の八割を占める農民の今後の生活に重要なポストを占める農地委員の選擧は二十日全國一齊に行はれたが、石城郡下の成績は定員三百四十名に對し立候補三百九十八名で結局舊勢力の地盤は壓倒的に農組の進出は僅か四十四名のみで終つた。町村別當選者左の通り

（泉村）吉田勝見、牧野幸次郎、鈴木長次郎、佐久間秋夫、吉田重吉、江尻郷、上遠野清、佐藤恒宣、有田清一、田山知治、（渡邊村）久保木安雄、大内又良、鈴木政雄、小野一枝、水野良一、高木信定、小野邦太郎、高木孝一、酒井四郎、江尻初義、（植田町）竹原周道、赤津初一、永山登、高木正徹、森田市[illegible]太郎、渡邊八郎、佐藤[illegible]太郎、喜滿、渡邊信太郎、（山田村）北郷要、坂本啓、小澤松太郎、大和川四郎、下山田松千代、[illegible]、佐川清、[illegible]山田[illegible]衛、[illegible]延、（[illegible]町）山野邊[illegible]由、星龍次郎、正木福八、助川金三、助川武平、山崎登、星友太郎、下山田久[illegible]、[illegible]利介、金成自三郎、（[illegible]町）有賀光太郎、齋天目金賀進、佐川東次郎、荒川章壽、天目信次郎、小松賢、安島久、根本權一郎、下山田孝一郎、（上遠野村）吉田謙光、瀬谷伊世三、大野元、櫛田一男、鈴木熊、蛭田治平、齊天目重兵衛、櫛田康、馬上吉三郎、鈴木與一、（入遠野村）高木瀧増、上遠野二郎、瀬谷正毅、佐藤富士雄、根本玉吉、上遠野泉、根本康雄、樋口久隆、永山照雄、平子重吉、（川部村）芳賀光與、清水德壽郎、平山幾三、小村長治、國井峰吉、兒玉万平、關部鶴壽、蛭田郡藏、蛭田喜一、小野[illegible]久、（田人村）緑川寅雄、鈴木定義、中村猛一郎、鈴木星山、緑川福彌、緑川鐵太郎、澤田源次、蛭田克、小野金兵衛、緑川捨一郎

（飯野村）新妻守勝、小林晃平、鈴木與茂作、小野助次郎、山崎淸一、草野隆重、鈴木禰松、鹽演瑛、山田一郎、江尻政義、（夏井村）山名久松、菅波義光、大和田廣、小林忠治、矢吹大郎、青木滿太郎、鈴木善太郎、大和田正一、鈴木正義、大友茂平、（高久村）矢吹文光、猪狩爲雄、志賀勝見、鈴木永司、矢吹淸次郎、鈴木重太郎、藁谷義長、志賀秀三郎、鈴木重次、野口嘉太郎

（豐間町）鈴木一藏、大和田酉松、鈴木一、四家淸治、志賀久儀、志賀重右衛門、遠藤總三郎、遠藤俊雄、永山宗七、鈴木道之助、（江名町）作山要七、吉田榮勝、風間幸太郎、吉田長次、大平祗美、吉田辰彌、薗田嘉太郎、丹野義次、新妻和平、田中稷、（鹿島村）永井永藏、長瀬資、新妻重喜、鈴木茂、波立[illegible]、鈴木孝親、三島五行、鈴木金藏、鵜沼忠美、佐原良近、（小名濱町）鈴木茂雄、鈴木[illegible]司、小野勝司、平澤雅造、小松勇吉、丹野政晴、小野務平、小泉忠文、松本慧、橋本雄吉、（湯本町）永山榮一、村上[illegible]一、高橋喜重、松田芳吉、[illegible]野藏治、高木晃、坂本[illegible]文、村上[illegible]、山口保、[illegible]保崎德衛、[illegible]（磐崎村）松崎正晴、[illegible]淸一

遠藤保、吉田淸、箱崎一郎、北郷一衛、木田周平、岩並庄太郎、野木重樹、中野松枝、（内郷町）吉田正義、草野藤太郎、加藤木誠一郎、草野輝吉、篠崎茂義、大勝一郎、山崎米太郎、馬目太平治、吉田三郎、佐藤三平

（好間村）吉野義也、岩丸爲雄、木田三郎、遠藤敏彦、勝沼國衛、小野忠雄、金成金作、叶多淸、叶多雄平、大谷喜重

（赤井村）草野重義、猪狩政一、根本茂男、川井保一、松崎一記、根本喜代一、鈴木國光、藁谷武夫、猪狩廣平、草野茂（永戸村）遠藤松治、會津守治、草野萬吉。草野勇治。柴崎竹千代。會津音一。松崎叶。阿部康司。會津傳。平山柳藏。（箕輪村）片寄金吾。高萩之信。高萩重馬。高萩凱。小沼延伸。高萩章。吉田幸夫。高萩平太。小沼三男哉。大和田拾男。（澤渡村）渡邊貞美。鈴木文良。佐川榮吉。草野長吉。草野銀治。若松要明。佐藤隆丸。平山善吉。三瓶滿男。田子辰雄。（三阪村）大谷重雄。竹内保波。熊谷吉重。松崎喜代司。渡邊佐一。田子四郎治。佐藤修明。佐藤龍美。佐藤一郎。吾妻淺之助（神谷村）金成勳一。酒井長一郎。中根熊之助。片寄直政。志賀武。會川利一。新妻利平治。志賀忠五郎（草野村）松崎勝彌。片寄好男。大津留輝。新妻忠治郎。小島義雄。篠崎秋穗。高岡文夫。豐田久義。渡邊晋吾。坂本住市（大浦村）高崎喜一。岡田勝男。岡本平馬。大谷重太郎。久野類太郎。渡邊貫一。酒井良平。鯨岡好衛。古市安雄。鈴木久助

（四倉町）山野邊重太郎。長谷川長三郎。中村與八郎。戸田昇。佐藤喜義。鈴木庄次郎。石井政男。長谷川哉平。長谷川時雄。長谷川初五郎（大野村）木村德治。會田喜市。長谷川新吾。草野金二郎。金田然經。吉田正直。鈴木文夫。木田五朗。金成仙治。木田孝二（上小川村）折内多磨男。萩野慶司。鈴木三男也。田久兼治。草野長松。草野昇。草野滿右衛門。長谷川松良。田久喜一。白井淸治（下小川村）長谷川吉松。吉田長次郎。遠藤大壽。西山輝雄。大森輝代。吉田金彌。白石長兵衛。根本正弘。佐藤年夫。草野秀勝（川前村）水野金一。柳乾一。新妻長吉。戸部源之助。根本庄吉。永山德一。矢内幸藏。佐藤裕次。新妻長太。大平九

初春興行

右太衛門と千鶴の槍をどり五十三次

―宿場〳〵に女あり戀の信號は赤？青？―

聚樂館で一日から上映

お江戸日本橋をつ立ち、可愛いおの娘に惚られてわれらが權三の戀と淚の旅日記―企畫は清水龍之助、脚本伊藤大輔、森一生の監督で、宮川一夫のカメラ。右太衛門と喜多川千鶴のコンビの喜多川は詩壇の頭領中村大吉郎の推薦で大映に入つた新人、この外月形龍之助、村田宏壽や新生新派の大幹部伊志井寛などが出演する初春向のもの。

【配役】

槍の權三　市川右太衛門
千鶴　喜多川千鶴
安長　月形龍之介
助十　伊志井寛
池津内藏太　嵐徳三郎
大野八郎兵衛　香川良介
外ノ村多中　寺島貢
お[illegible]　常盤操子
お米　香住佐代子
お弓　江原良子

【梗概】

例へ、武士の端くれでも、士といふ名前さへつけば戀人と一緒になれる。それを唯一の目的、希望として槍振りの權三は小此木藩の槍振りに雇はれて東海道を九州へと進んでゐた。

途中、吉田の宿に宿をとつた小此木藩に對して、同じ大名も大藩である都合藩の者が、自藩の體面を保つ爲に、小此木藩の泊つてゐる宿を明け渡す樣使者をよこした。

小此木藩の者は返事に窮して自分達は大權現ゆかりの阿茶羅丸と云ふ名槍を護持してゐるからと、俄に宿を譲らなかつたが遂には藩士の者が金に買收されて宿を譲つた。

都合藩では件の槍に關して不審に思つた矢先、あわたゞしい宿替への爲その槍を小此木藩の者が置き忘れたのを幸ひ、槍を渡す條件として、小此木藩の責任者の割腹を切ることを要求して來た。小此木藩の者も之には弱つた。擧句のはてに考へついたことは、槍振りの權三がかねてから武士になりたがつてゐることであつた。それを利用することで、そこで藩士達は權三を呼んだ。

初め、武士にしてやると云ふ言に大喜びであつた權三も、事の眞相を知つて驚き、これを拒絶した。怒つた藩士達は權三を殺そうと迫つて來た。死に追いつめられた權三も、今は是までと、決然槍を揮つて小此木藩の一團に立ち向ふのであつた。

◈京染部新設◈

新柄各種見本取揃へました一般更生品染色加工を御用命願ひます、

機械完備　京屋染工場

平市南町大通り

パーマネント
婚禮衣裳着附
お待兼の新店が出來ました
どうぞよろしく

パーマネント　ミトヤ

湯本町驛前通り
電一二八番

新春の映畫

漸く解禁された うたかたの戀

―ボワイエとダリウの名演に綴る―

平館で一日から公開

墺太利の皇儲ルドルフと男爵令孃マリイ・ヴエツセラとの戀物語をクロードアネが小說としたのをアナトール・リドヴアクが[illegible]し・ネーベンツアールの演出したもの作曲は〃最後の戰鬪機〃を擔當したアルチユールオネガーが指揮してゐる藝術版でフランスのコンコルデア社の提供品である

―配役―

ルドルフ大公……シヤルル・ボワイエ
マリイ・ヴエツセラ……ダニエル・ダリユー
大公妃……[illegible]
ヴエツセラ男爵夫人……[illegible]
宰相ターフエ……ジヤン・ドビユクール

―物語―

十九世紀末歐洲に最古の王統を誇るハプスブルク家では、因習と頑迷のみがその宮廷を支配してゐた。

聰明闊達な皇儲ルドルフ大公は、この雰圍氣に飽きたらず、自由主義新聞社長セツプスを友人とし、學生の社會主義運動に身を投じてゐた。

國政の實權を握る宰相ターフは、この運動に大彈壓を加へ、一味を嚴しく投獄する一方、皇儲の行動を封じやうと、無理押しに白耳義皇女を妃として迎へしめた。

ルドルフ公は、その念識のはけ口を酒と女に求め、日夜に互る酒宴がつゞけられ、彼の英氣は、たゞそれに依つてしびれさせられたのだ。一日彼は遊園地に不圖男爵令孃マリイ・ブツセラと知り合つた。彼女の淸純さは强くルドルフの心をひき、しかしこの戀を、やがて宰相ターフエの知るところとなり、彼の卑劣な手段によつてマリイは維納から遠へ離れたトリエストの伯母の許へ預けられた。凡ての希望を失つたルドルフは、以前にもまさる激しい酒宴によつてその[illegible]をまぎらわしてゐた。

幸ひマリイは六週間の後赦されて歸つて來た。ルドルフは羅馬法王に離婚の請願をし、彼女を正式に妃として迎へることにした。しかしこの願ひは却下され、父フランツ・ヨゼフ帝は[illegible]として直ちにマリイと絶縁することを命じた。ルドルフ公は決意を[illegible]め維納からはるかに離れた[illegible]と許された最後の時を[illegible]とにした。[illegible]藝の疲れに安らかな眠に落ちるのを見届けた後、ルドルフは最後の準備にとりかゝつた。何時しか曉が白々と訪れてゐた[illegible]たる二發の銃聲、[illegible]その美しい顏に、何の苦痛の恨も見せず死んだマリイの上に、ルドルフ公が折り重つて息絶えてゐた。

一八八九年一月三十日のことである

カフエー　末廣

忘年會に……
新年宴會に……
小宴會の
設備あります

女給さん入用

小名濱町橫町

女店員募集

K F E E

小名濱の

うきよ

忘年會に新年宴會に
御利用下さい